

国際芸術祭「森の芸術祭」における作品鑑賞支援の取り組み



展示作品の前で学生達が作品鑑賞を支援する様子 (2024年11月16日、新見市立図書館)

- **主な連携先**
森の芸術祭実行委員会
- **参加メンバー**
芸術学部 デザイン芸術学科、メディア映像学科の学生
- **活動地域**
岡山県新見市 新見市立図書館、岡山県津山市
- **活動期間**
2024年4月～2024年12月
- **活動資金**
学内競争資金（地域連携分野）

目的

1. 国際芸術祭「森の芸術祭」への参加を通じて岡山県北という地域を知り、国際的な芸術祭について学ぶ。
2. アート作品と鑑賞者を結ぶ「対話型鑑賞」というメソッドを学び、森の芸術祭の作品鑑賞を支援する。
3. 科目「総合プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ」「総合プロジェクト実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で、専門分野の学びを地域課題の解決に活かす。

連携に至る経緯

岡山県は、岡山県北の観光資源に現代アートを組み合わせ、展開した初の国際芸術祭「森の芸術祭」を2024年9月28日～11月24日に開催した。森の芸術祭実行委員会からの依頼で本学が森の芸術祭に関わる形を考えた結果、芸術学部の学生達が芸術祭を学び、県北の会場に出展された現代アート作品を森の芸術祭のコーディネーターらと連携しながら鑑賞支援する取り組みなどを実践した。

活動内容

1. 芸術祭について学ぶ

森の芸術祭実行委員会と連携して芸術祭の意義を学んだ。また、岡山県北エリアの美術館関係者を講師に招き、地域のアート関係者から見た芸術祭や県北エリアで展開しているアート活動の動きについて学んだ。



2. 作品鑑賞ガイドを制作

森の芸術祭実行委員会と連携して、「対話型鑑賞」メソッドを学んだ。森の芸術祭の会場である新見市立図書館を下見し、コーディネーターの協力のもとに作品鑑賞ガイドを作成、鑑賞サポートの実践方法を考えた。



3. 森の芸術祭で作品鑑賞支援を実施

11月16日に新見市立図書館で学生達が作品鑑賞ガイドを手に、出展作品の鑑賞に訪れた人に対して鑑賞サポートを行った。また、11月17日に森の芸術祭津山エリアの作品を鑑賞した後で、大学のSNS媒体を使って森の芸術祭に関する情報発信を行った。



活動成果

- ・マイケル・リン氏の作品「スタンダードカラー 2024」作品鑑賞ガイドを制作 (B5 カラー版 8 ページ)
- ・作品鑑賞ガイドを使って、マイケル・リン氏の作品の前で学生達が作品鑑賞支援を実施
- ・森の芸術祭 津山エリアで展示作品を鑑賞して、大学の SNS 媒体を使って森の芸術祭の情報を発信
- ・学生達が鑑賞サポートをしている様子取材した報道 (新見市の新聞「備北民報」)

参加した学生の意見・感想など

みなさんからの感謝の声にこちらも嬉しい。うまくサポートできたかは分からないが、少しでも理解が深まってもらえたら。

(引用：備北民報の記事、2024年11月22日)

この取り組みを実施またはサポートした教員

- ・芸術学部・准教授 澁澤 星
- ・芸術学部・講師 大森 隆
- ・芸術学部・教授 / 芸術学部長 田丸 稔
- ・芸術学部・教授 / 研究・地域連携センター長 馬場 始三